



# 授業研究と研究授業

◇ 授業研究と研究授業は、似て非なるものです。私は、福岡県筑後小に勤務している時、当時の研究主任だった古賀孝敏先生にこのことを教わりました。

## 授業研究

これは、**授業の仕方を研究**するものです。そのため、ここでは、

- 板書の仕方
- 机間指導の仕方
- 発問の適切さ
- 資料提示の有効性
- 意欲の持たせ方
- 発表のさせ方 など

のように、授業の仕方について提案し、参加者全員で協議をし、よりよい方法を見つけようとするものです。

そのため

この授業は、年間や単元などの前後の脈絡に関係なく

**単発で**

行うことができます。



これをまとめたものは

**実践記録**

となります。

## 研究授業

これは、**仮説を検証して、よりよい指導方法を見出すもの**です。

研究授業までに必要な手順は次のとおりです

### その1

#### 仮説をたてる

年間を通して、どういう子どもを育てたいのか、そのためにどういう手立ても有効かを考えます。

### その2

#### 学習計画をたてる

どの時期にどういう指導を積み上げていくかを考えます。教科を絞るのも有効です。

### その3

#### 学習計画にそって授業を行う

どういう指導をした結果、どういう力がついていったのかを記録していきます。

研究授業では、

**その授業で明らかにしたいこと（授業仮説）を示し、授業を行います。**

この授業は**単発で行いません**。これまでどういう指導を行ってきたか、どういう力がついているかを示します。そして、仮説検証のために授業をします。

研究授業後は、研究授業で明らかになった課題を解決していくために、授業実践を積み上げていきます。

これをまとめたものは

**研究論文**

に近いものになります。

## 研究授業の指導案は

これまでの指導案と異なるのは、次の2カ所になると考えられます。

### ① 「主題観」を示すこと

「主題観」とは、研究主題をどのように捉えているか、自分の考えを示すことです。そして、年間を通して、どういう取組をするべきかを示します。

### ② 「指導観」に、これまでの指導の流れと授業仮説を記すこと

子どもたちの育ちを示すために、これまでどういう指導を行ってきた、どういう力がついているかを示し、授業仮説を記すこと大切です。そして、本授業での仮説と仮説検証のための手立てを示します。

## 研究授業の指導案検討では

指導案に示された「主題観」に基づいて、授業仮説と仮説検証のための手立ての有効性について検討します。

## 研究授業後の協議会では

授業仮説と仮説検証のための手立てが有効であったかについて、ワークショップ型で協議を行います。

今後の取組のために、授業から見えてきた仮説に対する課題をはっきりさせておきます。

授業研究と研究授業の違いを図にしてみました。

学力向上にかかわる県の方針や学習指導要領が「授業力の向上」「授業改善と教師力アップ」「何をやったか、ではなく、どんな力がついたか」ということにシフトし始めていることを考えると、ここにあげた研究授業への取組が必要ではないかと考えます。